

氏名	竹 中 志 保
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3548号
学位授与の日付	平成13年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Relative Benign Clinical Course in Asymptomatic Brugada Type ECG Patients without Family History of Sudden Death. (突然死の家族歴を有さない無症候性Brugada型心電図を呈す る患者の予後についての検討)
論文審査委員	教授 佐野 俊二 教授 梶谷 文彦 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年、Brugada症候群の家系において心筋Naチャンネルの遺伝子(SCN5A)の異常が報告されたため、無症候性Brugada型心電図を呈する患者を検討するにあたり、突然死の家族歴の有無により分類して検討する必要があると考えられた。我々は、突然死の家族歴を有さない無症候性Brugada型心電図を呈する患者に限定して、薬理学的性質、電気生理学的性質、予後について検討した。11人の突然死の家族歴を有さない無症候性Brugada型心電図を呈する患者(平均40.5±9.6歳)は、全例においてピルジカイニドによりST上昇が増高され、心室筋の伝導遅延が増大した。平均42.5 ± 21.6ヶ月の経過観察中に全例において、失神や突然死は発症しなかった。

突然死の家族歴を有さない無症候性Brugada型心電図を呈する患者の予後は比較的良好である可能性が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は突然死の家族歴を有さない無症候性Brugada型心電図を有する11例の患者について薬理学的性質、電気生理学性質、予後について検討したものである。全例においてピルジカイニドによりST上昇が増高され心室筋の伝導遅延が増大したが、平均42ヶ月の経過観察中に失神や突然死の発症は認められず、比較的予後は良好であるとの知見を得た。また5段階の重症度分類を提唱しており、価値ある業績であると認める。

よって、本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。